

## CT 造影剤を用いた検査を受けられる方へ

今回実施する検査では、“造影剤”という薬剤を注射して行います。造影剤を用いることにより、あなたの病気の状態をより正確に診断し、治療に役立てることが出来ます。造影剤は安全な薬ですが、まれに副作用が起こることがあるため、以下の記載事項をご確認ください。

### 【副作用について】

※造影剤を注入すると、体が熱くなることがあります。これは造影剤の刺激であり心配はありません。

#### 1) 軽い副作用

吐き気・動悸・頭痛・かゆみ・発疹などで、基本的に治療を要しません。

このような副作用の起こる確率は、約100人につき5人以下（5%以下）です。

#### 2) 重い副作用

呼吸困難、意識障害、血圧低下などです。このような副作用は、通常は治療が必要で、後遺症が起こる可能性があります。そのため、入院や手術が必要なこともあります。このような副作用の起こる確率は、約1千人につき1人以下（0.1%以下）です。

病状・体質によっては約10-20万人につき1人の割合（0.0005%-0.001%）で、死亡する場合があります。

#### 3) 造影剤による腎機能障害

造影剤投与後に腎機能が低下する方が、約100人につき5人以下（5%以下）でおられます。多くの場合腎機能低下は一時的ですが、腎機能障害が持続することもあります。

### 【併用に注意すべき糖尿病薬】

糖尿病の治療薬であるピグアナイド薬（メトホルミンやメトグルコなど）を飲まれている患者さんは、極めてまれですが乳酸アシドーシスという副作用が発生します。ピグアナイド薬と造影剤の併用で、乳酸アシドーシスの発生頻度は5%との報告もあります。念のためピグアナイド薬は検査2日前から検査2日後まで計5日間休薬して頂きます。緊急の場合を含めてピグアナイド薬が休薬不十分で検査に来られた場合、造影CT検査を行うか延期するかをオーダー医または担当医にて決定させて頂きます。休薬が不十分なまま造影CT検査を行う場合は、検査2日後までのピグアナイド薬の休薬をお願いします。

### 【血管外漏出】

勢いよく造影剤を注入するために、血管外に造影剤がもれることがあります。この場合には、注射した部位がはれて、痛みを伴うこともあります。基本的には時間がたてば、吸収され心配することはありません。ただ、もれた量が多い場合には、別の処置が必要となることもあります。このようなことは非常にまれです。

造影剤を使用しなくても検査は行えますが、正確な診断が出来ない場合があります。

当院では万一の副作用に対して万全の体制を整えて、検査を行っています。検査中もし変だと感じたら、ためらわず、すぐにおっしゃって下さい。

ID 番号	
氏名	
生年月日	性別

## 造影 CT 同意書

独立行政法人  
国立病院機構 京都医療センター

京都医療センター院長 殿  
診療科長 殿

このたび、私は診療行為を受けるにあたって、担当医師から以下の内容について説明を受けました。

- 現在の病名・病状と予後について
- 検査方法の目的、内容、効果、危険性について
- 提示した方法以外に選択肢として可能な検査方法、有効性および危険性
- 検査内容に応じて守っていただきたいこと

その上で、以下に記載されます診療行為を受けることに

同意します。  同意しません。

診療行為(検査等)

検査予定日

説明日時

貴院の名称 \_\_\_\_\_

医師名 \_\_\_\_\_ 印

署名日 年 月 日

本人署名 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_ 印

家族署名 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_ 印

(患者が未成年等の場合) 患者との続柄( )

\* 直筆の署名がある場合、印鑑は不要